

平成 26 年(2014 年)度事業活動報告

発展途上国では、80%以上の障がい児は農村部に居住しています。しかし医療機関が遠距離の都市部に集中しているために、容易に医療施設で適切な治療を受けることができません。

そのため、1980年代に地域に根差したリハビリテーション(CBR=Community Based Rehabilitation)の考え方がWHOによって提唱され、障がい者が健常者と共生し、自立支援のための課題解決をするための活動がアジアやアフリカの多くの国で実践されています。(2015年9月 東京でアジア太平洋 CBR 会議が開かれます) 地域にある資源(学校や集会所)を活用して、専門家の指導で障がい者自身やその家族、地域のボランティアなどが協力して、治療や教育などのサービスを受けられ、障がい者が地域社会に参加することを促し、障がい者の自立を地域で支えるようにするのがCBRの考え方です。

当会としては、彼らが車椅子を利用することによって、肉体的、精神的な健康改善の助長し、自立支援を促して病院や学校に行き、職業訓練や地域の行事など地域の社会に参加できるように、効果的な社会開発事業の支援をしています。当初は小規模で車椅子を送る事業でしたが、各々の国へ送付する車椅子の台数が増加し、その国で障がい児の治療や社会変革に必要不可欠な手段として車いすを提供していく日本のNGOとして、活動の役割の深化を図るよう努めています。

当会は、本年で発足以来 10 年間国内外の多くの方々のご理解とご支援をいただき、累計で21カ国へ4,380台を届けることが出来ました。当会は日本で使われなくなり廃棄されてしまう貴重な資源(子ども用車椅子)を海外で手に入れることができない恵まれない子どもたちに無償で届けることによって、国際人道支援に貢献しようとするもので、1台20万円として8億円以上が無駄にならず活かされました。

海外で車椅子が長く使えるように受入団体や施設の責任者を対象に保守のためのワークショップを開いて技術指導や技術移転を図って、大切に長く効果的に使用してもらえるように保守の技術指導とノウハウを伝え、小さくなったら適合する子どもへ渡して、受益者が増えるよう指導しています。

さらに持続的発展性のある事業とするために、各国で車椅子がどのように活用されているか、どんな効果あるかなどモニタリング(追跡調査)を行い、各国のプロジェクトの評価と検証をしてフォローしています。

1. 車椅子収集事業

首都圏の肢体不自由児の特別支援学校や養育施設さらに保健所の保健福祉センターなどのPTAの保護者の方々や自立支援活動部の先生方の協力をいただき、昨年よりも6校多く32学校から705台(昨年は651台)の提供を受けました。都県別収集実績は次の通りです。2014年の()は特別支援学校数です。

	2014年(対象校総数)		2013年	
東京都	13校(18)	284台	(12校	288台)
神奈川県	10校(18)	162台	(8校	145台)
埼玉県	6校(9)	183台	(4校	143台)
千葉県	3校(6)	76台	(2校	75台)
合計	32校(51)	705台	(26校	651台)

大阪のある特別支援学校からは生徒が自らきれいに磨き、保護者が送料を負担して8台送っていただきました。さらに個人の方が当会へ直接持参されたものや車椅子業者からの提供があり、合計約750台収集しました。

多くのPTAの会員の方々は当会のホームページや口コミで当会の活動を知って、多くの学校のPTAが年中行事として会員から収集する活動が定着し、全体の約6割の学校から毎年定期的に車椅子などを提供していただいています。

当会は車椅子ばかりでなく、座位保持椅子、ウォーカー、補そう具なども収集しています。いずれも高価で海外で入手困難で、海外での要望もおおく、現地で物理療法士や専門家が適合する障がい児に活用され喜ばれています。



多くの特別支援学校のPTAでは年中行事として収集活動が定着している。不要になった車椅子を廃棄するのはもったいないと喜んで提供いただいている。

2. 車椅子の整備事業

当会の例会には大学生や高校生をはじめ支援いただいている企業の社員の方々が都心から離れた場所にもかかわらず、ボランティアとして毎月平均 40 名以上の参加者が整備活動に参加いただきました。

車椅子の洗浄や車椅子メーカーのかたの指導で、安全性や耐久性を考慮して、タイヤやブレーキのチェックや梱包作業などをそれぞれが心を込めて作業をしています。昨年からはタイヤにゲルを注入して空気が抜けにくく、パンクも少なくなるような対策を試験的に試みています。

また在日エチオピア人、ベトナム人、ネパール人等が当会の活動に賛同して参加し、参加者同士の交流が深まりました。

例会の場所を 26 年 1 月から車椅子の収集・保管さらにコンテナ積み作業をしていただいている羽村市の多摩包装工業に移して、物理的・経費的に無駄を省けることができました。

高校生・大学生・支援企業の社員・在日外国人等幅広いボランティアが整備作業に参加しています。



3. 車椅子発送事業

車椅子は丁寧に梱包されて、コンテナに積み込んで船便で各国へ発送しています。



平成 26年度寄贈実績

スリランカ	10月	20台	JICA 青年協力隊員の要望 「世界に笑顔のために」プログラム
パラグアイ	10月	80台	全国障害児支援施設
ミャンマー	12月	90台	国立リハビリ病院・ヤンゴン子ども病院
マレーシア	27/1月	150台	東方政策元日本留学生同窓会(ALEPS) 及びマレーシア元留日学生協会(JAGAM)

合計 340台 (計画比 61 昨年比 45)

昨年度は 755 台の計画をしていましたが、カンボジアなどの案件について公的助成の申請手続きと成約が遅れたために年度内に実施できず、計画を大幅に達成することができませんでした。

その分車椅子の在庫が増えましたが、来年度に持ち越して支援国へ届けます。

当会は現地で協力団体と引渡式を行い、適合する子どもに車椅子を貸与し、子どもたちの家庭を訪問して車椅子の使い方を指導し、活用状況や視察して、配布状況を確認しています。本年はミャンマーとマレーシアを訪問しました。

マレーシアにはボランティアとして参加した大学生 7 名が現地を訪問して、贈呈式に出席し、ホームステイをして異文化理解と国際交流に努めました。

贈呈式や現地訪問の様子など詳しくは当会 HP を参照下さい

海外での贈呈式の様子



2015年3月

マレーシアのクアラランプールで

ヤンゴン子ども病院のホールで喜ぶ子ども達

4. 活動広報事業

当会が海外で子ども達に車椅子を届けて、養護施設や家庭を訪問して車椅子がどのように利用されているか、子どもたちや家族の生活どう変わったかなど現地の様子をお伝えするとともに、海外の母親や子ども達の感謝の気持ちを具体的にお知らせするために、従来のミニ通信に代えて、昨年度から新たに写真を中心に「活動報告レポート」を3回発行しました。

特別支援学校のPTA会員や支援団体内で回覧され、当会について広く知っていただいていることに感謝しています。

また昨年に新規レイアウトで見やすいウェブサイトを開設して、日本での活動をはじめ海外での事業の内容をタイムリーに広報するよう努めています。

新しいホームページ: <http://www.kaigaikurumaisu.org/>

5. 当会の財務状況

当会が運送業者のトラックを手配して車椅子を特別支援学校から収集し、必要に応じてタイヤやブレーキを交換する整備をして、海外へコンテナで送る国内及び海外輸送にかかる費用などを計算すると、届ける国への距離にもよりますが、1台平均約1万円を要します。

それらの費用は当会の活動に賛同いただく会員の会費と支援者(個人及び団体)の寄付金それに民間助成や公的助成の支援資金で賄っていますが、別表の収支報告書の通り、年々収入が減少しており、将来活動を継続していくために安定した資金の確保が最大の課題です。

会費についても一昨年会員拡大に努めて136名登録いただきましたが、昨年度会費を納入いただいたのは86名で、多くの方々は会費納入を見過されたためか、大幅な減少です。寄付金については大口の寄付金が2社からあったために、何とか平年の水準を確保できましたが、継続的に寄付をいただけるように支援をお願いしていきます。

民間助成及び公的助成を受けるにあたって、モノを送っているだけでなく、発展途上国での障がい児の地域ぐるみの支援に必要な不可欠なツールとして車椅子を届け、社会変革に寄与するプロジェクトとして進めていく所存です。

どうか引き続きご支援ご協力をくださいますよう、心からお願い申し上げます。

以上

5/